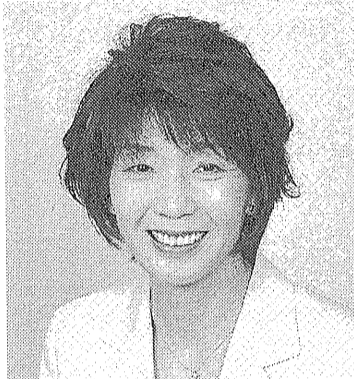


ここが聞きたい

〈月曜掲載〉



大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構 作本貞子理事

事業用自動車の重大事故のひとつに、健康起因による事故がある。近年ではその件数が増加傾向にある。高齢ドライバーの増加や、業界内の激しい競争がドライバーに与えられた体調不良や居眠り運転を招いたり、さらに管理する事業者もドライバーの健康状態をおろそかにしがちだったりするケースが要因と指摘される。こうした健康起因の事故をどう防ぐか、トラック、バス、タクシ業界などの健康管理をアシストするNPO法人、大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構(OCHIS)の作本貞子理事に聞いた。

健康起因事故の現状 健康起因事故は確かに増加しています。3月には大阪の高槻市でスイミングスクールのバスが炎上し、事故がありました。運転者は65歳。死因は焼死でしたが、不整脈による心臓発作を起した可能性があります。このうち乗

健康起因の事故防止

合バスは25件、高速バス50代39人、60代19人、70代1人の順です。5件、貸切バス2件、ハイヤー・タクシー35件、トラック30件となっており、バス、タクシー、トラックの業態ではほぼ等分となっています。

把握していない。さらに健康管理の重要性を指導していないということも。さらに運転者自身も高血圧が原因で引き起こされる病気を理解していないことでもあります。やはり、高齢者社会の進展で運転者も高齢化してきます。健康に起因する事故防止対策の検討が必要で、さらに高血圧、糖尿病などを抱える運転者、事業者は持病に対する知識、予防策を十分に理解する必要があります。

安全と健康は「両輪」 運転者の状態把握重要

事故に関係していた疾病や年齢について 97件のうち心臓疾患・血管系疾患32人、脳血管系疾患30人、その他疾患21人、消化器系疾患8人、糖尿病3人、呼吸器系疾患2人、睡眠障害1人でした。年齢は20代2人、30代9人、40代27人、

は基礎疾患が高血圧が多く、健康診断後の再検査や精密検査を受診していなかったり、乗務前の前駆症状があるにもかかわらず自己申告していません。また運行管理者による運転者に対する生活習慣病予防の

健康に対する危険防止のためには、1次健診の実施。その結果から2次健診の労災保険には、「2次健康診断等給付」という制度があり、脳血管、心臓疾患を発症する可能性のある労働者に実施するもので、その後の保健指導も含めて費用は労災保険から支給されますので活用をお勧めします。

そして点呼時の判断。酒気帯びや疾病、過労などを事前に確認し、マニュアルでは疾病別に症状などチェック項目もあるため、こうした項目を照らし合わせることもできます。最後に重要なのは、こうした指導を記録に残すことです。事業者としての責務を果たしている事実を証明するものから、きちんと整えておく必要があります。